

第 2 回 町田市スポーツ施設整備構想懇談会 議事要旨

日 時 2017 年 12 月 19 日（火）18：30～20：00

場 所 市庁舎 2階おうえんルーム

出席者

川崎登志喜 委員（会長）	玉川大学教育学部 教授
浪越 一喜 委員（副会長）	帝京大学教育学部 教授
山本 正実 委員	一般財団法人 町田市体育協会 理事長
大友 健寿 委員	株式会社ゼルビア 事業部 部長
関野 淳太 委員	株式会社 CASCABEL FUTSAL CLUBE 事業部 部長
安部 徹 委員	町田市スポーツ推進委員 会長
市川 健一 委員	公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 副会長
安達 廣美 委員	町田市町内会自治会連合会 会長
大久保 明 委員	一般社団法人 町田市観光コンベンション協会 事務局長

欠席者

間野 義之 委員	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
永友 洋司 委員	キャノンラグビーフットボールクラブ ゼネラルマネージャー
鹿沼 由理恵 委員	市内在住トップアスリート（リオパラリンピック銀メダリスト）
岡田 栄 委員	NPO 法人 CCCNET 事務局長
佐藤 正志 委員	町田商工会議所 専務理事

事務局

文化スポーツ振興部スポーツ振興課長 石田 一太郎
 文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長 渋谷 晴久
 文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長 伊奈 誠
 文化スポーツ振興部スポーツ振興課統括係長 根岸 良美
 文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 清水 明
 文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 喜多 和則
 文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 鈴木 朝子
 文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 松尾 哲平
 文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事 地福 友美
 文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事 石川 典子
 政策経営部長 小島 達也
 政策経営部企画政策課長 田中 善夫
 都市づくり部長 神蔵 重徳
 都市づくり部公園緑地課長 杉山 祐介
 都市づくり部公園緑地課公園管理担当課長 高梨 光之

傍聴者 11 名

議事

1. 開会
2. 事務局より
3. 前回議事要旨の確認
4. 意見交換
 - ・ 体育館における見るスポーツの充実について
 - ・ プールにおける見るスポーツの充実について
5. その他
6. 閉会

配布資料

- ・ 次第
- ・ 第1回懇談会議事要旨 ……資料1
- ・ 町田市の基本計画におけるスポーツの位置づけ ……資料2
- ・ 懇談会の流れ ……資料3
- ・ 体育館について ……資料4
- ・ プールについて ……資料5

議事要旨

1. 開会

事務局からあいさつが行われた。

2. 事務局より

配布資料の確認が行われた。

3. 前回議事要旨の確認

事務局から、第1回懇談会の議事要旨の確認が行われた。

4. 意見交換

事務局が資料2、3、4を基に説明を行った。

・ 体育館における見るスポーツの充実について

川崎委員 市民が総合体育館をなかなか利用できていない点について、データが示された。体育館について、する、見るといった視点で意見はあるか。

関野委員 43万人という市の人口に対して、大きな大会等を行える場所は総合体育館1つしかないのが実情だと思う。ホームタウンチームが大会やリーグ戦で利用すると、体育館の利用率が現状のように高くなってしまう。もう1つ市民が利用しやすい体育館をつくるのか、より大きな規模のアリーナをつくるのかといった点は検討していけるとよいのではないか。

体育館利用にあたって現状では、諸室が十分に足りていない。プロチームの利用に限らず、市民の方の利用にあたって選手控室等が足りていないのではないかと感じている。また、「見る」スポーツの施設として利用していくためには大型映像装置も必要になると感じている。今後検討していけるとよい。

川崎委員 検討事項は、短期的な視点と中・長期的な視点の2つで考えられるのではないかと感じている。短期的には既存の施設をどのように利用していくか、中・長期的にはアリーナの新設や既存の施設の大規模改修といったことも考えていくことになるかと感じている。

山本委員 市の事業や指定管理者の事業と市民の利用について、優先度など全体的なことを見直さなければ根本的な解決は難しいのではないかと感じている。

長期的な視点でみると、総合体育館は広さの面で他の体育館から見劣りすることはないと感じている。天井も高く国際大会等も開催できる。しかし、先ほどのご意見にあったように、大型映像装置や諸室が不足しており、これまでは想定していなかった課題が出てきていると考えている。今後は根本的な対策も検討していく必要があると感じている。

安部委員 体育館の利用率が高い日が平日、週末等どこに偏っているかということも考えていく必要があるのではないかと感じている。体育館がなかなか利用できないという市民の声も実際に聞いている。また、「見る」スポーツについてはPRも不足していると感じており、関係団体が連携、バックアップする体制づくりも重要だと感じている。

財政的な問題があるので長期的な検討となると思うが、理想的には総合体育館と同様な体育館がもう1つあって、市民の利用環境を充実していけるとよい。その点で、サン町田旭体育館は市民向けの体育館だと感じている。財政的に難しければ、この規模の体育館を充実していくという考え方も必要かもしれない。

- 市川委員 障害者スポーツの視点では児童生徒の卒業後、特に福祉的就労の場合、スポーツの場は不足していると感じている。また、公共施設の利用など、スポーツを実施するにあたり、人を集めるという「する」の前段でも課題がある。
- する、見る、支えるという視点では、都立の特別支援学校を様々なかたちで開放しているという流れがある。昔は学校側が管理運営の面で難色を示すこともあったが、町田市では都立町田の丘学園がそういった役割を担っていくことになるかもしれない。うまく協力していけるとよい。
- 川崎委員 2013年に東京都で行われた第68回国民体育大会・第13回全国障害者スポーツ大会では、施設が一部改修されている。そのタイミングで障害者の施設利用にあたって利便性の向上等の成果はあったか。
- 市川委員 障害者スポーツといっても、障害のある人が行うスポーツというだけで、施設を利用する人の利便性がどう向上するかが重要だと考えている。その意味では、施設が改修されることは市民にとって喜ばしいことだと思う。
- 川崎委員 総合体育館は、当初どのような考え方で建設されたかという資料は残っているのか。
- 事務局 推測となってしまう部分があるが、近年注目されている「見る」スポーツという視点では、客席数や諸室等について十分な検討がなされていなかったかもしれない。
- 浪越委員 町田市で「見る」スポーツを推進するにあたって、例えばペスカドーラ町田は、総合体育館についてアクセスを優先し利用し続けていくのか、それとも市民のための体育館として位置付け、新たなアリーナの建設を望んでいくのか。また、チームとしてこれまで最大でどの程度の観客数であったのか、また、客席数として理想の規模はあるか。
- 八王子市は55万人ほどの人口の中で、新たなアリーナを建設した。メインアリーナは興行利用、サブアリーナは市民利用とすみ分けをしている。施設を改修するとしても、工事期間中の代替施設の準備も重要となる。
- 関野委員 これまで総合体育館では最大で2,000人ほどとなっており、毎回その数とはなっていない。しかし、先日北海道での試合は4,000人の観客がいた。今後集客に力を入れていくにあたり、施設整備も求めているが、まずは総合体育館を満席にするということに向けて努力していくつもりである。
- 川崎委員 Fリーグの参入にあたり、観客動員数の規定はあったのか。
- 関野委員 3,000人規模という条件があったが、今は緩和されている。
- 川崎委員 バスケットボールのB1リーグの基準なども施設の新設にあたっては参考にする必要がある。
- 浪越委員 アリーナはプロスポーツに限らず、コンサート等のイベントを開催し、稼働率を維持していくことも重要である。市では、例えばアリーナの新設を検討するとした場合、何かイメージや想い等はあるか。
- 事務局 他自治体を見ると、町田市の人口規模をみると5,000人規模のアリーナがあってもよいかと思う。また、採算性を考慮し、スポーツ以外の利用等も検討していくことが重要になると考えている。
- 川崎委員 短期的、中・長期的にみると、体育館での「する」スポーツの場をどう確保していくかというハード面と、高い利用率の中で市民の利用のために抽選の仕組みをどうするかといったソフト面での検討が必要になるのではないか。また、ハード面では、他自治体と

比較して、十分な状況ではないということは委員の中での共通認識だと考えている。財源が確保できれば新しいアリーナの建設を検討するのか、あるいは既存の施設を改修し、工事期間中の場の確保のためにも小さな体育館をいくつか準備するのかといった点も今後検討が必要だといえる。

市民の「する」スポーツの場を確保するとともに、「見る」スポーツの場を整備していくことは検討の価値があるということで一旦のまとめとしたい。

山本委員 野津田公園の整備計画の中に体育館の新設案があったかと思う。現在の検討状況はどのようなになっているのか。

事務局 「町田市第二次野津田公園整備基本計画」で体育館について記載があるが、まずは2021年を目標に公園の拡張を検討しており、その先に体育館を含めた他の施設の建設を検討していくことになる。

川崎委員 その体育館はどの程度の規模を想定しているのか。「する」スポーツの場となるのか。

事務局 詳細は未定の部分があるが1,800㎡という床面積が現時点で想定されている。「見る」よりは「する」スポーツの場になるのではないかと。

大久保委員 総合体育館は、プロ向けの仕様ではないと感じている。「プロチームが育つ」、「市民に夢を与える施設」ということを考えると見る人がワクワクするような施設という視点で、設備の充実は今後検討していく必要があるのではないかと。

川崎委員 「見る」スポーツを意識した大型ビジョン等の設備の充実は必要といえるかもしれない。

安部委員 体育館は多くあるにこしたことはないと思う。その中で、体育館の学校開放は現状どのようなになっているのか。学校開放の現状も重要な情報だと考えている。

川崎委員 次回懇談会で資料を提供してほしい。

事務局 次回懇談会にむけて資料を用意する。

・ プールにおける見るスポーツの充実について

事務局が資料5を基に説明を行った。

川崎委員 室内プールの観客席数は何席なのか。

事務局 773席となっている。

山本委員 12月1日の「広報まちだ」に「熱回収施設等の周辺施設整備基本構想（素案）」への意見募集があったが、その中に室内プールとの一体的な整備により利便性を高めるといった内容の記載があったが、現状どのような検討がなされているのか。

事務局 ごみ処理の焼却余熱を利用した健康増進温浴施設を室内プールの駐車場の敷地内に建設することを検討している。室内プールとどのように一体的な管理運営等を行っていくかは今後の検討事項となっている。

山本委員 その際プール自体の改修も議題にあがっているのか。

事務局 当計画においては議題にあがっていないが、室内プールも建設からだいぶ時間が経っており、総合体育館同様、今後の改修については検討が進められている。

川崎委員 その改修はどういった内容なのか。

事務局 機能の向上ではなく、既存の施設の更新といったイメージで、全面的なリニューアル等ではない。

- 川崎委員 工事期間中市民はプールを利用できないということか。
- 事務局 できる限りそういった期間を短縮するよう検討していく。
- 市川委員 資料5 P.1 で市内の中学校温水プールの利用者数が2014年度から減少しているが、利用者が減少したために開放日を減らしたのか。
- 事務局 事業を縮小した経緯について説明する。2011年に行われた包括外部監査において「費用対効果が十分でない」「廃止を含めて検討すること」といった指摘を受けた。その後、いくつかの対策を取ったが十分な効果が得られず、事業を縮小することとなった。
- 市川委員 室内プールの利用者は微増となっており、市民のニーズがないわけではないと感じる。費用対効果はシビアな面もあると思うが、ニーズに応じていくことも重要だと思う。
- 事務局 室内プールは指定管理者制度を取っており、中学校温水プールは業務委託としている点が大きく異なる。中学校温水プールは学校施設のため、教育委員会とも相談し、利用者が増える取組を検討していく必要はあると認識している。
- 川崎委員 中学校温水プールも市民のスポーツの場として重要だと感じる。それぞれの施設について近々での改修の必要性はあるのか。
- 事務局 町田第一中学校温水プールが最初で、1992年に建設されている。学校施設であるため、基本的に施設の維持管理を行っていく。
- 川崎委員 当時、温水プールのニーズがあったということか。
- 事務局 市内の旧5カ町村各地域にプールを建設するという議論もあったと聞いている。
- 川崎委員 プールについては新設等のハード面の整備ではなく、既存の施設の利用者増の取組を検討していくという意見が提言につながっていくか。
- 山本委員 プールは健康づくりと関連付けられることも多い。町田市民の年代別のスポーツ実施率をみると、働き盛り世代で低くなっている。この要因に利用時間との関連性は考えられないか。
- 事務局 中学校温水プールの開放は平日夜間、土日の学校での利用がない時間に行っており、市民の利用も想定している。
- 浪越委員 室内プールは今後も市民が利用できる施設として、現状を維持していくことが大事だと感じている。中学校温水プールについては、個人的な意見として、学校利用以外で利用時間の拡充やトレーニング施設の併設など、スポーツの場としての機能の拡充ができてよいのではないかと感じている。
- 川崎委員 総合型地域スポーツクラブの拠点として可能性も十分あると思う。機能をプラスすることで何か生まれるのではないかと感じるという意見であった。
- 大友委員 中学校ということで、多くの市民の徒歩圏内にこういった施設があることは恵まれていると感じる。町田市の特色を出したスポーツの場となれば、スポーツ振興の面でまちのPRにもつながると感じている。
- 川崎委員 まちの特徴という面で、よりよい状況となるよう検討していけるとよい。
- 大久保委員 室内プールは利用者がある程度固定されているということはないか。新たに利用したいと思う市民を増やすためのきっかけづくり、動機付けも考えていく必要があるのではないか。

安達委員 町会自治会においては、スポーツの話題が出るのが少なく、情報の周知、PR がまだまだ不足していると感じる。市内にいい施設があるが、「見る」スポーツについても、今後どのように考えていくか、前向きに捉えていく必要があると感じている。

5. その他

川崎委員 閉会まで少し時間がある。先ほど学校開放の現状について資料要望があったが、次回懇談会のテーマについての資料要望等はあるか。

次回懇談会で提供される資料について、事務局で想定事項があれば報告できるか。

事務局が追加資料と次回提出予定の資料について説明を行った。

川崎委員 事務局の説明のほか、資料等の要望はあるか。

安達委員 「町田市5ヵ年計画 17-21」の重点事業2の中で「スポーツをする場の環境整備」とあるが、施設建設にあたって騒音対策等について、市の考え方等があれば資料を提出してほしい。施設整備にあたっては、地域住民に負担のないよう事業を推進してほしい。

川崎委員 陸上競技場については、他自治体で J2 のクラブがあるまちの事例を参考にできるとよいかもわからない。

6. 閉会

事務局 1点、資料の訂正をお願いしたい。近隣市と施設等を比較した資料の中で市の面積の単位が「㎡」となっていたが、「km²」に修正したい。

第3回懇談会は1月26日（火）18：30から、場所は市民協働おうえんルームを予定している。

以上